

酒々井町郷土研究会々報

第36号

昭和60年4月1日
酒々井町郷土研究会
総務部

年中行事 (一)

私達の生活の中で、昔からいろいろのしきたりによって、毎年きまった日に行なわれる年中行事が、たくさんあります。

お互に祝ったり、祝われたり祖先からつづいてきた年中行事は生活の中にとけこんで守られてきていますが、時代とともに少しづつ変化しております。

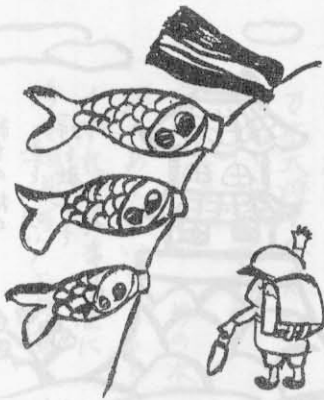
このような年中行事を中心として、酒々井町の年中行事をシリーズとして、一つづつ取りあげてみることにしました。

端午の節句

いわれ

三月の桃の節句がすぎると、間もなく、空に鯉のぼりが泳ぐ元氣のよい端午の節句がやってきます。

端午の節句は五節句の一つで「重五・重午」ともいい、また



「菖蒲の節句」ともいわれて、男子の節句として、男子が出生すると盛大にお祝いをしました。昔は旧暦の五月五日で、今は今では陽暦の五月五日となっております。

端午の言葉は中国から伝わったもので、端は「はし」とか「はじめ」という意味があり、午は「五」に通じ、五月五日を節句としたようであります。

菖蒲の節句といわれるのは、菖蒲は強力な薬草で、邪気を払うというので、菖蒲と蓬を軒に飾り、菖蒲湯に入る習慣となりました。

また菖蒲は尚武の語呂合せとあって、勇ましい武者人形や武器を飾ることになりました。これは男子は健やかで勇ましく育つて欲しい願いがこめられています。

最初は貴族社会で行われ、時代が下るに従って、武士階級や豪商に伝わり、一般庶民の間に浸透したのは江戸末期からと思われれます。

節句の行事

節句の行事も、その地方によって異なりますが、酒々井町の一般的な行事を中心に、大正から昭和初期と現在を比較してみよう。

昔も今も変わらないのは、
(一) 端午の節句は五月五日であること。

(二) 節句祝いをするのは長男の初節句が主であり、次男、三男は内祝にとどまること。

(三) 節句の行事には菖蒲と鯉のぼりと相餅がつきものであること。などでありましょう。

大正から昭和初期は長男の時代であり、家督も財産相続権も長男のものでした。長男の出生

はその家の安泰と意味して親類縁者からまで祝福されました。初の節句が近づく、親類縁者から布製、紙製の鯉、武者人形、金品が贈られてきます。親元(母親の里方)からは、八幡太郎や源義経などの武将の画かれた幟旗一对と媒酌人からは、鐘馗の幟が贈られます。



鯉のぼりと幟は庭先に立てられて五月の風にはためいて勇ましい風物詩を演出しました。

お祝いをうけた家では、五月一日〜三日ごろお返しとして相餅を配り、五月五日には、自宅に招待して祝宴を開く、これが一般的でありました。

昭和初期ごろは布製の鯉のぼりは稀で、紙製であり、内飾りも少なく、全般的に質素な感じ

でありました。
最近では幟旗は見られなくなり
ました。鯉のぼりは布製の豪華
なものの、内飾りの、兜・鎧も
豪華を競い合う傾向であり、祝
宴も料亭やホテルを利用するよ
うになりつつあります。
これに対し、すべてを内祝いで
済ます質実型も多くなってきました。
(相京記)



次号もよろしく

佐倉城跡公園探訪

青木 喜作

三月六日野草の会による標記
の行事に参加した。興味あるもの、勉
強になるもの色々たくさんあったが、
ここでは天守閣について学んだ事
を紹介しよう。

三重四層で高さ二ニメートル位と
言え今の六七階の高層住宅の高
さで富士山と背景に威容を
ほこって居たことでしょう。そ



紅白の梅が
みごとに咲いて
一行を歓迎してく
れました。

の上の方の部分は江戸
城にあったものを将軍

家光公が佐倉城の創設者土井利勝
に下されたものだそう、利勝は土手の
高さまで一階部分を造り、その上に三
重と乗せたので外見は三重で、実は
四層と云う珍しい形になったそう
です。それが文化一〇年、今から一九
〇年程前のことですが、火事で焼けてし
ました。

その火事の原因がまだなんと盗賊の
置き忘れにちようちんの火であったと
は驚きました。それにしてもあの
嚴重な土手やからぼり水堀をいくつ
ものりこえてよく入って来た泥棒
があるのですね。それに番人の武
士もいたろうし、泥棒が逃げて天守閣
が焼けるまで気がつかなかったとすれば
さむらいも 其の頃はもうよっぽ
どたるんでいたので
しょうか。

野草

青木 朝次

最近では野草ブームであるとい
う。春、夏、秋それぞれ季節
には、各地で野草展が開かれ
観光地では、その地の野草が工
産品とともに並べられて結構売
れている。

広辞苑をみると、野草は「野
に生える草。野の草」となっ
ている。要するに雑草のことであ
るが、野草を呼ぶ場合は、観賞
にたえる草、親しめる草を野草
と呼んでいるようである。

野草には不思議な美しさや秘
められていた。園芸種にはない
素朴さ、謙虚さがブームを呼ん
でいるのであろう。

そこで、今回は身近にある次
の二つにスポットをあててみる。

ハハコグサ

春の七草の「ジギョウ」であ
る。越年草で畑畑や荒地などの
雑草に混じってひっそりと自生
している。

茎も葉も白い綿毛でつつまれ

五、六月頃、頭上に淡黄色の花
が密集して咲き、なんとも初々
しい感じが愛される。



また薬草としても知られてい
る。昔は咳の薬。皮膚病の薬と
して用いられたが、今では忘れ
られている。

ノビル

春の山野菜として知られてい
る。「ネギル」や「ニラ」と同じ
仲間のユリ科の植物で、畑、荒
地、土手などに群生する多年草。

「ラッキョウ」と「ニラ」の
合の子のような感じで、地下に
白い球をもつ。郷土研の「山菜
を食べる会」には酢味噌あえと
して登場して馴染みとなってい
る。



木内氏退任

郷土研究会発足時より副会長として活躍下さいました木内忠治郎氏が、この度役を退任されました。色々と指導賜り誠に有難うございました。心から御礼申し上げます。

つきましては、三月十七日の定例役員会に於て、その貢献に感謝し感謝状と記念品を贈呈し意見を表しました。益々の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

下岩橋支部誕生

郷土研究会も会員の増加にもない、支部が作られるようになりまし。

数年前、中川支部が作られたのにつづいて、下岩橋地区に支部が作られることになり、去る二月十八日、青年館に於て初集會が開かれました。

会長と副会長の金杉さんが招待され、地区の会員と親しく懇談することができました。

みんな知っているもの同志の和やかな雰囲気の中で昔の民俗について聞くことができてよい集りでありました。

今後の発展を祈ります。

(相京記)

あそび 遊び(七)

宮本 博司

縄とび

四、五米の一本の縄(輪ゴムをつないだゴム縄でもよい)を選ばれた二人が縄の両端を持って、歌の調子に合わせて、これを振り続ける。この場合、波状の字状に回わすことも組み入れる。

他の者は順にミスをしないうに縄を飛び越えるのだ。この場合、二人が向い合つて一緒に飛ぶこともある。

歌われたのは、小学校唱歌「水師堂の令見」

一、旅順開城約成りて

敵の將軍ステッセル

乃木大將と令見の

所はいづみ水師堂

二、庭に一本なつめの木

弾のあともちぢるく

くおれ残れる民屋に

今ぞ相見る 二將軍

三、乃木大將はおごそかに

おめぐみ深き大君の
大みことのり 伝うれば
かしこみま謝しまつる

四、昨日の敵は 今日の友

語ることばも うちとけて
我はたたえつ かの防備
かれはたたえつ わが武勇

五、さらはと握手 ねんごろに

別れて行くや 右左
砲音絶えし 砲名に
ひらめき立てり 日の御旗

郵便屋さんや

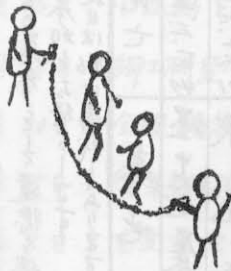
おはいんなまい
さあ、よろしゅうで
ジャンケンポン

負けにお方は

おめでなさい。

一時、二時、三時、四時

五時、.....、
もうかれこれ十二時だ。



ジャンケン遊び

ジャンケンでたものにより歩数をきめる。例えは、げんこ(三歩)、はさみ(五歩)、ひら(十歩) 或は果物などの名称と数に合せてきめることもある。

二組に分れ、かつ、組の中でも、相手の組とジャンケンをする人、歩き進む人をきめておく

これが済むと、歩く一定区間とさめる。よく果道等にある電柱間の距離を利用した。

早く歩数をのばして 折り返して 元の位置に到着した方が勝ちである。

石けり

路面にいくつかの棒をかき、路面にいくつかの棒をかき、それを順番をつける。





三月の修業式がすみ、小川の水がぬるむ頃になると、裸足で歩きたくなる。
 小川の流れを泥、砂で止めて、バケツで水をかい出し、少なくなつたところで、鮎、ナマズ、ゲバジ、かに(もくそり)等を手で捕える魚とりの一種である。

川干し

その頃に従い、足けんけんで、石をけりながら進んで行く遊びである。
 石が順の違つた場所、線の上にかかつたときは、元の位置からやりなおす。
 石けりは平たい石又はガラス製の石けり等を用いた。

次号に

歴代町長墓参資料

郷土研60年度

代	氏名	就任	退職	死亡	墓地
初	宗島新五郎	明治三三、八	明二四、二五		
四	石渡勘右衛門	明治三三、二	三三、五		
七	飯沼喜一郎	明治三三、九	三三、九		
一〇	高崎孝吉	大正二、二	大正一、一〇		
一八	古川正	昭和九、二	昭三、二		
二五	堀和登	昭三、五、八	昭三、五、八		
三〇	岡田新吉	昭三、九、二	昭三、九、二		
三三	吉岡市太郎	昭三、六、二	昭三、六、二		
三九	相京倉之助	昭三、一〇	昭三、一〇		
四一	木村伊助	昭三、三	昭三、九		
四二	松本三郎	昭四、一	昭四、一		
四三	鶴岡道平	昭五、一	昭五、一		
四四	若林民助	昭五、四	昭五、二		
四五	勘半蔵	昭五、五	昭五、二		
四六	勘芳太郎	昭五、七	昭五、七		
四七	勘義三郎	昭五、七	昭五、七		
四八	木内栄策	昭五、八	昭五、八		
四九	高橋観英	昭五、九	昭五、九		
五〇	勘文雄	昭五、一〇	昭五、一〇		
五一	加瀬左武郎	昭五、一〇	昭五、一〇		

歴代町長墓参について

郷土研では初めての行事として、町の発展に貢献されました歴代町長の墓参を、その遺徳を徳にこたへました。沢山の御参加をお待ちします。
 (実施日は16日に掲載しております)

◎ 小豆粥を食べる会 2月16日
 会費 500 60人 30,000.-
 材料費 27,000.-
 差引残高 2,987.- 郷土研採入れ

◎ 香取地方見学会 3月12・15・22日
 (収入) 会費 A,B,C 95,500. 雑収 300.-
 ￥ 95,800.-

(支出) 辨当代 3回計 56,160.-
 兼願寺 燈明料 3回 9,000.-
 香取神宮 拜観料 3回 9,500.-
 茶代 3回 6,000.-
 バス代 3回 24,000.-
 計 104,660.-

差引不足 ￥ 9,160.- 郷土研より

(会計報告)

- 田村直子
- 藤崎房枝
- 上田悦子
- 増川房子
- 福田セフ
- 勘 玉子
- 鶴岡知子
- 白石栄子
- 木村幸子

編集委員

(会報編集について)
 郷土研究会の顔ともいわれる会報を、さらに読み易く、親しみ易くするために、左の方々に編集委員を委嘱して、清新な内容とすることになりました。
 つきましては、今後は原稿を会員の皆様から載くことになり、ますので御協力をお願いいたします。

昭和60年度事業計画	
事業名	説明
1 町内史跡のぐりハイク	年1回 教育委員会共催
2 史跡見学会	年5回(内 県内3回、県外1回) 2泊2日/回
3 古文書学習会	年10回 1月、8月以外の毎月
4 神社石佛調査	年5回 天候雨天資料整理
5 町内石佛めぐり	年2回 天候雨天中止
6 歴代町長の墓参	3回
7 野草の会 名勝探訪	年9回 天候雨天中止
8 郷土史講座	年1回 教育委員会共催
9 史談会	年5回
10 史跡文化財愛護活動	町内史跡文化財愛護奉仕 数回
11 会報発行	年4回 1月、4月、7月、10月発行

◆ 総会報告 ◆
 郷土研究会の昭和六十年年度定時総会は一月二十六日(土)中央公民館で開催され、昭和五十九年度の事業報告、同決算報告書が承認され、昭和六十年年度事業計画書、(別記)同予算書が議決され、役員改選が行われ、別記の役員が選任されました。
 議事終了後、文化映画「印播沼の周辺」と「源頼朝の20日間」の二本が上映され、楽しく観賞しました。出席者百十余名、盛会裡に無事終了致しました。

郷土研究会 60-61年度役員					60.1.26改選	
役名	氏名	地区	役名	氏名	地区	
会長	相京晴次			増川房子		
副会長	沖田善三郎			吉松みづ江		
	会田秀雄			小別当光		
	金杉智恵			白石栄子		
監事	福田豊吉			山内晨一		
	青木朝次			田中松美		
会計	河合昭男			室賀淳吉		
	石渡朝次郎			木村幸子		
	中村寛			青木喜作		
	那須八郎			白石正雄		
	御厨萬一			岡田文子		
	田村直子			福田せつ		
	筋玉子			福田とし		
	鶴岡知子			木村とし子		
	上田悦子			古川今子		
	藤崎房枝			富沢勝		
	石渡一郎			相京正明		
	子安とよ			川島重利		
	京増忠太郎			村島とし		
	藤川正美			磯山清一		
	中野敏子			寒郡義一		

郷土研日誌

(月日)	(内容)	(参加者)
1月13日	名勝探訪・六義園、旧古河庭園 と付坂地蔵	28名
1月26日	定時総会・於中央公民館	110名
2月16日	小豆粥を食べる会	60名
2月18日	郷土研究会 下岩橋支部発会合	16名
2月20日	会報編集会議 オ1回	6名
2月27日	編集部主催、節外盆の行事と開会	12名
3月2日	古文書学習会	9名
3月12日	香取地方見学会 A班	30名
3月15日	" B班	29名
3月16日	野草の会・佐倉城跡公園付近観察	22名
3月17日	運営委員会、才2・4半期行事計画	24名
3月22日	香取地方見学会 C班	36名
3月24日	文化財愛護・上岩橋貝層、横元古墳 草刈	11名
"	" 伊藤の松並木の 清掃	22名

青葉すかし
 6月16日
 町内史跡めぐり
 ハイキング
 お持ち
 楽しんで
 歩いて
 みま
 参加の
 程お持ちします。

郷土研行事業案内

60年4月～6月

	4月	5月	6月
古文書学習会	6日(土) 午後1時30分 中央公民館	4日(土) 午後1時30分 中央公民館	1日(土) 午後1時30分 中央公民館
石佛調査	14日(日) 午前9時 中央公民館集合	5日(日) 午前9時 (雨天中止) 代替 6月9日(日) 石佛めぐり 中央公民館集合 (上本佐倉・本佐倉地区)	
野草の会 名勝探訪	25日(木) 午前11時 山菜を食べる会 中央公民館 会費500円 申込受付4/6	12日(日) 午前8時20分 — 京成酒々井駅集合 湯島聖堂—神田明神— 湯島天神—根津神社	16日(日) 町内史跡めぐりと合流 雨天代替6月23日(日)
歴代町長 墓参	21日(日) 午前9時30分 中央公民館集合 初代栄島②石渡③飯沼外2人 (雨天中止) 代替4月28日(日)	3日(金) 午前9時30分 中央公民館集合 2代蒔外4④鶴間⑤若杯⑥高橋 (雨天中止) 代替5月6日(日)	
文化財愛護	4月13日(土) 午後1時 墨六所神社	中央公民館集合 午後1時30分 現地 さらしなしょうま群生地草刈り (雨天中止) 代替4月20日(日)	
町内 史跡めぐり	6月16日(日) 午前9時30分 町内史跡めぐりハイキング 教育委員会共催(昼食持参)	中央公民館集合 (雨天中止) 代替6月23日(日) 公民館—大川戸—東佐院—香取神社 —東電北総変電所—経亂寺—解散	
県内 見学会	6月11日(火) A班 14日(金) B班 19日(水) C班 (出発) 午前8時30分 申込受付	コース (野田方面) 野田醤油工場—野田清水公園 —関宿 鈴木貫太郎記念館 中央公民館前 (会費1,000円. 中食代含む) 4月10日 午前9時以後町史編纂室(96-1171)	

見学会案内

県内見学会 6/14, 19

○キッコーマンは誰も知る生産高才一位の醤油工場です。近代化された工場の見学をするのも勉強になります。

○清水公園は元、名刹・金乗院の境内地でありましたが、今は裾とつじの名所となっています。

○鈴木貫太郎記念館は関宿町にあります。海軍大将で、天皇の信任厚く終戦処理の総理大臣として知られています。その遺品が展示されております。

名勝探訪 5/2
湯島聖堂
徳川幕府の学問所としてつくられ、旗本の子弟を教育した大成殿には孔子像、孟子像が安置されている。

○神田明神
江戸の総鎮守として、氏子が多く、神田の祭りでも知られている。

○湯島天神
泉鏡花の梅島の白梅で知られ、学問の神様として栄

新入会員紹介

- | | |
|-----------|-----------|
| 440 関くら | 452 富下ふみ |
| 461 桜井美代子 | 453 篠崎文江 |
| 462 天坂信行 | 454 宮島達雄 |
| 463 佐瀬キン | 455 川島イホ |
| 464 青藤てい | 456 田中浩子 |
| 465 宮内幸江 | 457 松下陽子 |
| 466 筋節子 | 458 森島美代子 |
| | 459 武藤厚子 |
- (60年1月～3月入会)

根津神社
えている。

編集後記
諸行事の一段落し、予定通りの今報運びとなりました。従来のもより読みやすく親しみ易いものも張り切っておりますが、ヨチヨチ歩きを始めた訳です。より充実したものを目指して頑張りたいと思っております。得意見なり自由な投稿を歓迎します。

五代將軍綱吉によって造営されて、本殿、拜殿、唐門など重要文化財となっている。